令和６年度　第３回学校運営協議会　議事録
【学校評価部会・キャリア部会・地域連携部会】

１　日　　時　　令和７年３月 12 日（水曜日）　　16 時 10 分～17 時 00 分

２　会　　場　　県立横浜清陵高等学校　会議室

３　出 席 者　　学校運営協議会委員　８名（１名欠席）
　　県立横浜清陵高等学校教職員　８名（１名欠席）

４　協議内容

（１）学校評価部会（全体会）

１．近況報告（校長）
・第 97 回選抜高校野球大会への出場に向けて、野球部員および関係者が本日出発した。野球部を始めとする「自治」の取組に倣い、学校としても探究的な視点で教育活動を進めている。

２．各グループ業務内容の最終報告および委員の方々からの意見

〇教育課程、学習指導
・生成 AI の利活用に関してどのような指導を行っているのか。（委員）
⇒3 月末に生成 AI に関連する研修を予定している。今後も他校での事例等を活用して、教員を対象とした研修の機会を持つことが必要と考えている。（事務局）

〇（幼児・児童）生徒指導・支援
・部長会の実施など生徒主体で行われている点は良い。（委員）
⇒部長会の活動として、部活に関する行事を企画した。また HP に月２回活動報告をアップするようになった。
・生徒が自主的に動いているのか。（委員）
⇒きっかけは教員だが、生徒が考えて主体で動いている。（事務局）

・具体的に生徒支援より回答があったので評価できる。生徒が変わっても活動を継続していくことができるよう、伝承のシステムを作ることが重要ではないか。（委員）

・かながわサポートドックの運用について、その結果を先生方がどう受け止めているのか。他校では、これまで見えなかったところが見えてきているという利点もあるようだが、清陵ではどうなのか。（委員）
⇒プッシュ型ということで、これまで埋もれていた生徒たちにも積極的に働きかけを行うことができた。サポートドックの実施で、生徒の様々な不安や悩みをついてわからなかったところが見えた。質問の受け取り方が生徒によって違うので特に支援を必要としていない

生徒が抽出されてしまい、担任が全ての対象生徒と面談しているので、担任がその対応に時間を多くかけている現状がある。働き方改革の面からも課題である。支援を本当に必要としている生徒を抽出できる点では効果はある。（事務局）

〇進路指導・支援

・本日の、横浜南地区総合的な探究の時間の発表を見学して、大人にはない視点から物事を捉え充実した発表を行っており感心した。（委員）

・学習塾のチラシに清陵高校の名前が掲載されるなど、塾が注目し出し、学校として評価され始めているのではないか。今後、進路実績を益々伸ばしてほしい。（委員）

〇地域等との協働

・普段あまり接点のない小学校と高校との連携をどのように取っていくかが課題と考えている。（委員）

・吹奏楽部の生徒が園児との話し合いの機会を持つなど、演奏以外での関わりがあった点が非常によかった。生徒自身で想像する教育が行われている点を評価したい。交流が発展してきている。（委員）

〇学校管理、学校運営

・野球部の甲子園出場により、野球部支援を通して、地域と学校のつながりが増えたことが嬉しい。（委員）

〇その他

学校評価報告書については、それぞれ内容の整理をお願いしたい。また、改善方策等の部分については、「改善の余地がある」といった文言ではなく、具体的な改善策を書くべき。（委員）

３．令和６年度　魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートについて

（企画広報グループより）

・生徒対象のアンケートについて

ほとんどの項目について、好意的な評価をいただいている。

１人１台端末に関する項目については、好意的な評価が約 70%であった。この数字が来年度どのように変化するか。生徒の ICT 機器の利活用への実感が、結果としてどのように現れるのか興味があるとともに課題として受け止めている。

・保護者対象のアンケートについて

「学校での保護者会や社会人のための講座、施設開放など、学校での活動に参加できたと思いますか」という質問に対して、好意的な評価が昨年度は 70% 程度だったのに対し、今年度は 40%に減少。社会人の講座を開いているわけではないので、今年度の結果が現実的と捉えられる。

「生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも(地域)社会に貢献しようと思うようになりましたか。」という質問の評価が、生徒に対する同じ質問の評価と比べて低かった理由としては、生徒は学校教育の一環で地域清掃などしているため社会貢献活動を

したという実感があるが、保護者にそのことが伝わっていないのが理由の一つとして考えられそうである。来年度は学校側からの保護者への情報発信やＨＰでの広報の工夫により改善をはかる。

【委員からの意見】

・経年変化が分かるように、棒グラフを使うなどして、アンケートの集計結果をまとめられないか。情報が多すぎる場合は、結果が乖離しているものや特徴のあるもののみを示すのはどうか。
・昨年度のものと一緒に載せると変化がわかりやすいのではないか。項目ごとに理由を記述する欄も取り入れてほしい。
・生徒は素直で良い子といった印象。回答に反映されている。
・人を思いやる気持ちが身に付いたとあるが、どういうところで思いやりの気持ちをもてたのか知りたい。
　⇒項目ごとに理由を記述する欄を取り入れる。
・生徒、保護者の清陵高校の教育に対する満足度が例年上っていくようにしてほしい。

４．令和６年度　後期授業評価結果について（学習支援グループより）

・授業評価の結果が年次によって違っている。年次が上がるにつれて良くなっている。（委員）
　⇒年次が上がるにつれて、選択科目の数も増えるので、生徒自身が希望した科目の受講数が増えることによって、満足度が上がっていくことが一因として考えられる。（事務局）
・１年次の評価が低い項目がある。他者の考えを共有するといった活動に対して戸惑いがあるのか。（委員）
　⇒ペアワーク等の活動を始めるにあたって、級友との仲を深めるのに時間がかかる印象がある。友人関係が深まるのに時間がかかる印象も持っている。（事務局）
　⇒前期はペアワークに抵抗がある生徒がいるが、後期はペアワークをしてほしいという意見が増えた。（事務局）
・生徒の不安の解消をどういうふうにしていくのか。全体の活動の中で、上手く取り組めない生徒の支援を考えることも課題でないか。保護者や先生方の協力が必要である。（委員）

５．今年度卒業生の進路状況について（キャリアガイダンスグループより）

今年度は総合型が非常に多かった。併願出願ができるようになったことで、年内に進学先を決めたいという生徒が増えたという印象がある。総合型受験者の３分の１、公募型受験者の２分の１が不合格という結果であった。今年度は、国公立合格者が零人だった。模試の結果なども活用して納得する進路を取らせていきたい。

（２）その他

令和７年度　第１回学校運営協議会は５月上旬開催予定である旨確認し、会議終了。

以上